

***求道者ニコデモの姿から**

求道者を代表しているようなニコデモは、パリサイ派やユダヤ議会に属していたが、その枠を超えて「夜」イエスのもとにやって来た。一般のユダヤ人から目立たないように、しかもイエス様と静かに一対一の対話がしたかったのではないか。今日においても、求道中の方々は、いろいろな導きがあったかもしれないが、よくぞ、教会堂の敷居を跨いで下さった、素晴らしい決心をされた、と心から歓迎したい。

求道者としてのニコデモの姿を見て、私たちは大いに見習いたい。こんなことを聞いたら笑われるかもしれないと心配する必要はない。探求心を持ちながら聖書に聴く、メッセージを聴く、クリスチャンの先輩に聞いてみる、牧師に質問してみる、まさに求道心を忘れずに探求してみよう。素晴らしい発見があるだろう。

***伝道者ヨハネの語りかけから**

続いて、この福音書をまとめた、ヨハネの姿に注目してみよう。今度は道を伝える、伝道者の姿だ。今日の聖書箇所を何度も読み返してみると、イエス様の言葉なのかヨハネの言葉なのか、分からなくなってくる。なぜだろうか。私は、こう理解している。ヨハネがこの福音書をまとめたのは、紀元後（AD）85～90年で、イエス様の十字架と復活、昇天から60年くらい経っている。イエス様が地上で御ことばを語り、さまざまなしを行なったことを、12弟子の一人ヨハネはよく見聞きしてきた。それ以来60年、多くの迫害がある、妨害がある中で、ヨハネは、主イエス様との出会いや語られた言葉を証ししてきた。そんなヨハネは、淡々とイエス様の言葉として記したつもりでも、自分の思いもそこに合わさって、イエス様の言葉ともヨハネの言葉とも取れる言い回しになったのだろう。そしてヨハネが本当に伝えたいことは、16節以下である。

伝道者としてのヨハネの姿から学ぶことは、主の御ことばをよく思い巡らすこと、イエス様が語られた一つひとつのことばを何年も何十年も暗唱するほどに思い巡らすことだ。こうして、自分の生き方が変えられていくのだ。これこそ、道であるキリストを伝える方法なのだ。証しをすることは素晴らしい伝道である。

***上から新しく生まれるとは（水と御霊によって生まれるとは）**

最後に、「新しく（上から）生まれる」とは、どういうことなのか、求めてみたい。8節「風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

実は、聖書では「風」という単語は「御霊」と同じ単語である。「その音を聞いても」とあるが、「音」とは「声」と訳してもよい単語である。主の聖霊という風は、どこから来て、どこに行くのか、全く分からない、思いのままに、吹いて行く。しかし、風が吹いた跡は残るのだ。御霊が吹くと「声」が聞こえる。その声は、御霊の働きによって救い出された人々の感謝と喜びの声だ。新しく生まれるとは、自らの罪を悔い改め、御霊が注がれ、喜びと感謝の人生が始まることなのである。

***暗唱聖句：ヨハネ3:3**

教会学校、子ども☆チャペルでは、今日の暗唱聖句は、ヨハネの福音書3章3節のイエス様の言葉である。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」「見る」と言うことは、「知る」ことであり、「体験する」ことだ。神であるキリストが頭となって治められているキリストの教会で、御国を体験するのだ。これからも共に驚くほどの喜びを、体験していきたい。